

前立腺

最近では前立腺がんが増えています。食事の洋風化による脂肪の摂りすぎと高齢化のせいといわれます。前立腺は男性だけにあり、睾丸で作られた精子の動きを活発にする精液を作っています。

クルミぐらいの大きさを膀胱の下に付いていて、その真ん中を尿道が通っています。このため、前立腺が肥大したり、がんができて腫れてくると、尿が出にくい（排尿困難）、トイレが近い（尿意頻数）などの症状が出てくる場合があります。がんの初期には、他のがんと同様、ほとんど症状がないことが多く、気付かないうちにがんが進行してしまうこともあります。しかし幸いなことに前立腺がんの多くは成長が遅く、放っておいても長期間進行せず命に別状のないものもあり、進行するようなものでも、初期に発見することができれば、適切な治療によって大抵は完全に治ります。

- 基準値表 -

項目	異常域(低)	境界域(低)	基準域	境界域(高)	異常域(高)
PSA(64歳以下)			~ 3.0		3.1~
PSA(65~69歳)			~ 3.5		3.6~
PSA(70歳以上)			~ 4.0		4.1~

PSA

前立腺から分泌される蛋白で、血液中に微量に含まれます。前立腺組織が大きくなると、それに応じてPSAの分泌が増えますし、がんでは前立腺組織が壊されると、壊れた細胞のPSAも血液中に流れ出て、しばしば値が高くなります。だからこの値が高い場合は泌尿器科で詳しい検査を受けて、前立腺肥大か前立腺がんかを定めることが必要になります。

ところが困ったことに、前立腺がんがあっても必ず検査値が高くなるとは限らず、またがんでないのに高い値が出ることもよくあります。今のところ、PSA検査が前立腺がんの死亡率を減らすのに確かに役立つとまではいえず、その有用性については、専門家の間でも意見が分かれています（日本泌尿器科学会は50歳以上男性のPSA検診を勧めています。厚生労働省の前立腺がん研究班は中止するよう勧告しています）。このことを十分理解したうえで、検査を受けるかどうかを自身でお決めください。また検査値が異常に高く出た場合は、泌尿器科で詳しい検査を受けて治療を要するがんがあるかないか、もしあればどのような治療法を選ぶか（手術か放射線療法か薬物治療かなど）を慎重に決める必要があります。

尚、PSA検査への薬剤(男性ホルモン作用抑制など)の影響については主治医にご相談ください。（PSA検査を受けるかどうかを判断するには、ドイツのポータルサイト<http://www.psa-entscheidungshilfe.de> の情報が参考になります。）